日本版FFWの進捗

~がん患者の就業と治療の両立支援の課題~

産業医科大学 公衆衛生学教室 松田晋哉

FFWに対する開業医の関心を 高めるための戦略

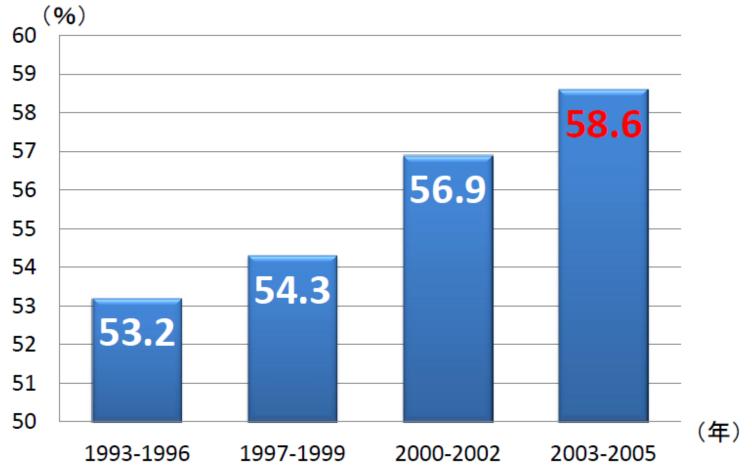
- 法律で定められたことを活用する
 - がん対策基本法
- 9. 動がん患者の就労を含めた社会的な問題

就労に関するニーズや課題を明らかにした上で、職場における理解の促進、相談支援体制の充実を通じて、がんになっても安心して働き暮らせる社会の構築を目指す。

- これをもとに他疾患(リウマチなどの筋骨格系 疾患)に展開
 - 産業保健での取り組み
 - 理学療法士などの関連職種の巻き込み

がんの5年相対生存率 (全がん)の推移

がん医療(放射線療法、化学療法、手術療法)の進歩は目覚ましく、 生存率は上昇している。



(出典) 地域がん登録に基づき独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センターが集計

仕事を持ちながら悪性新生物で通院している者

悪性新生物の治療のため、仕事を持ちながら通院している者は32.5万人いる

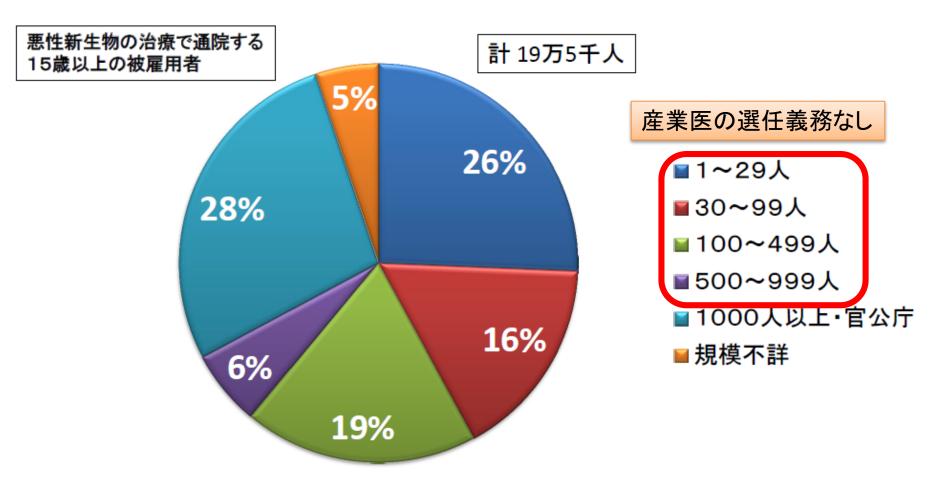


※ 仕事をもっているとは、調査月に収入を伴う仕事を少しでもしたことをいい、被雇用者のほか、自営業主、家族従事者等を含む。

資料:厚生労働省「平成22年国民生活基礎調査」を基に同省健康局にて特別集計したもの

がん患者が働く職場の企業規模

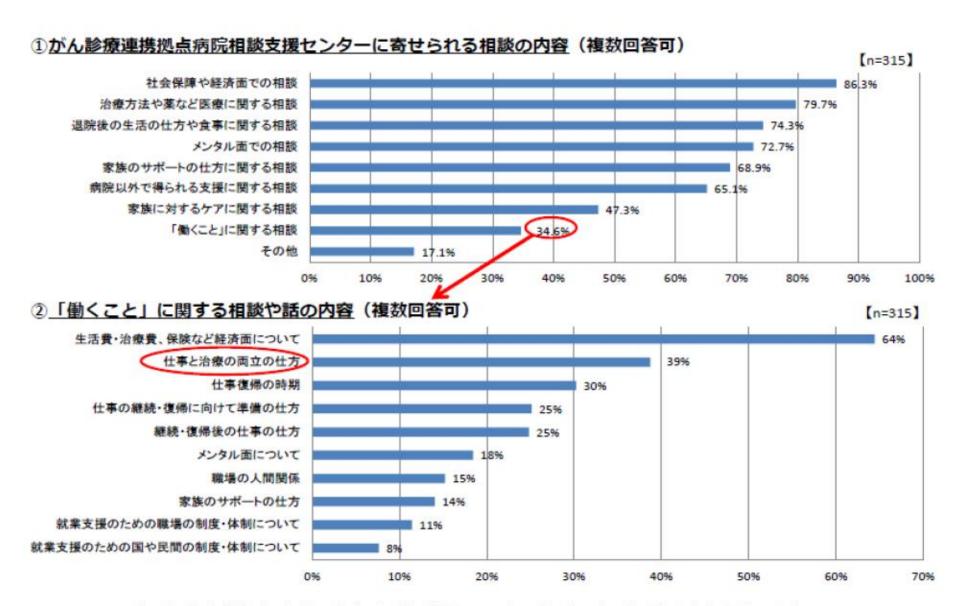
がん患者はあらゆる規模の企業で働いている



※ 被雇用者には正規の従業員、パート・アルバイト、派遣社員、契約社員等を含み、 自営業主、家族従業者、会社・団体等の役員等は含まない。

資料:厚生労働省「平成22年国民生活基礎調査」を基に同省健康局にて特別集計したもの

がん診療連携拠点病院相談支援センターにおける相談の内容

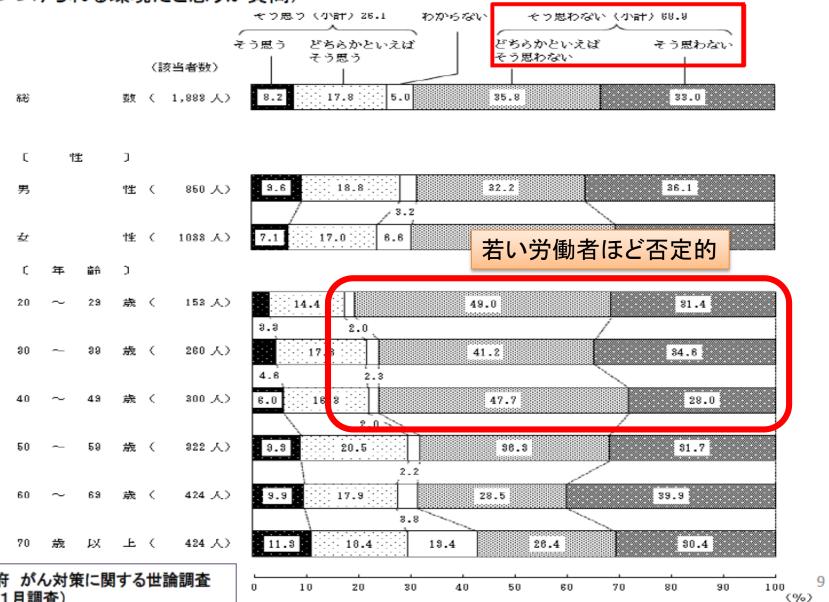


※がん診療連携拠点病院で従事する相談員に315名に経験のある相談内容を調査したもの

出所: NPO法人キャンサーリボンズ調べ(平成21年)

仕事と治療等の両立についての認識 (世論調査)

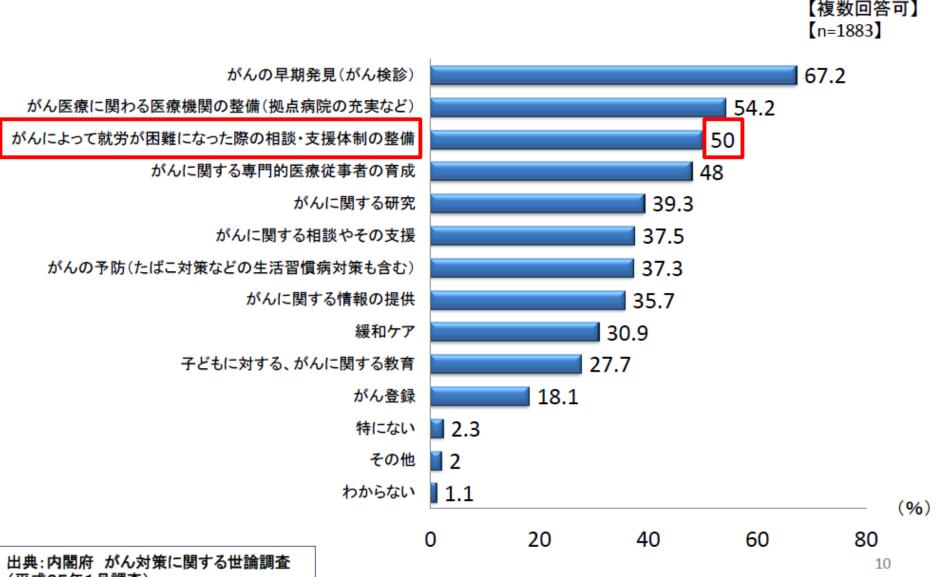
(現在の日本の社会は、がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、 働きつづけられる環境だと思うか質問)



出典:内閣府 がん対策に関する世論調査 (平成25年1月調査)

がん対策に関する政府に対する要望 (世論調査)

(がん対策について、政府としてどういったことに力をいれてほしいと思うかと質問)



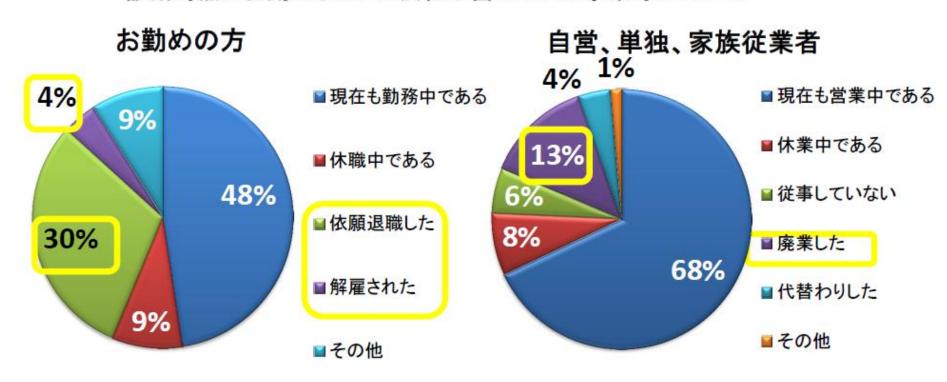
(平成25年1月調査)

がん患者・経験者の就労問題

がん患者を対象に調査を行った結果、がんの診断後、

- 勤務者の34%が依願退職、解雇されている。
- 自営業等の者の13%が廃業している。

診断時点にお勤めしていた会社や営んでいた事業等について

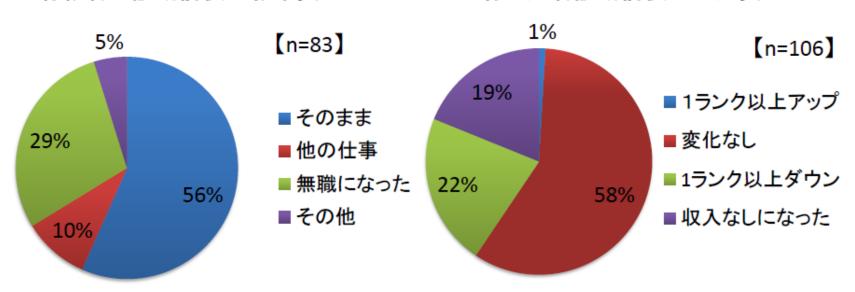


出典:厚生労働科学研究費補助金、厚生労働省がん研究助成金「がんの社会学」に関する合同研究班 ₁₁ (主任研究者 山口健)(平成16年)

がんと診断された後の職業と収入の変化

○有職者の診断前後の職業変化

〇有収入者診断前後の収入変化



平均年収の変化

診断前 約395万円



診断後 約167万円

Edition ABONNES

Comment préparer son retour au travail après un cancer

Transport de Mareschal | Mis à jour le 04/02/2014 à 15/23 | Publié le 04/02/2014 à 14/19







フランスではがん患者の80%が、治療後復職している。がん患者に対する雇用差別は人権問題という認識。

Curie 研究所の研究から(1)

- がん患者が復職にあたって困難と感じることの第一は罹患前の業務量をこなせないこと (特に肉体労働者)
 - 記憶力の減退や集中力の低下
 - 痛み
 - -動作の制限
- ・企業側の配慮不足(稼働能力の過大評価)
 - うつ状態や罪悪感の原因となる

Curie 研究所の研究から(2)

- がん患者の復職には準備期間が必要
- 復職に向けた計画的リハビリテーションの必要性
 - 明確な目標と方法
 - 目標の相対化
 - 復職することの意義(仲間や家族との関係)→求められているという感覚の確認
 - 産業医との事前の面談
 - 産業医から雇用主への助言と環境調整
 - 段階的な復職
 - 前提としての身体的・精神的状態
 - ・ 必要に応じて種々の公的支援を活用(障害者手当など)

医療者への相談の有無	病気についての相談	医師にしている 医師にしていない	18 17	51.4 48.6	
		看護師にしている 看護師にしていない	13 22	37.1 62.9	
	仕事についての相談	医師にしている 医師にしていない	4 31	11.4 88.6	
		看護師にしている 看護師にしていない	9 26	25.7 74.3	

佐藤ら(2013)

佐藤三穂、吉田 恵、前田美樹、鷲見尚己: がん患者が外来化学療法を受けながら仕事を継続するうえでの困難と取り組み, およびそれらの関連要因、日本がん看護学会誌、第27巻(3):77-84,2013.

表 3 仕事継続の力	とめの取り組み		n = 35
		n	%
周囲との調整			
治療のスケジュールを病院と相談して都合の	実施した	13	37.1
よい日にずらしてもらった	実施していない	22	62.9
病気休暇など会社の福利厚生制度を利用した	実施した	11	31.4
	実施していない	24	68.6
出勤の曜日や時間帯を変えてもらった	実施した	9	25.7
	実施していない	26	74.3
部署を異動したり、仕事内容を変えたりして	実施した	5	14.3
もらった	実施していない	30	85.7
職場に近い医療機関を選択した	実施した	2	5.7
	実施していない	33	94.3
職場での公表			
病名について	多くの人に伝えた	18	51.4
	一部の人に伝えた	15	42.9
	伝えていない	2	5.7
日常生活上の注意点について	すべて伝えた	14	40.0
	部分的に伝えた	15	42.9
	伝えていない	6	17.1

佐藤ら(2013)

表 4 仕事継続上の困難に関連する要因

n = 35

	診断後経過年数			倦怠感			吐気/嘔吐		
	中央値(範囲)	U値	p値	中央値 (範囲)	U値	p値	なし (n)	あり (n)	p 値 (Fisher の直接 法による値)
あまり/ まったく感じない	3.0 (3.0)	89.0	0.047	33.3 (36.1)	95.5	0.120	12	2	0.422
非常に/やや感じる	1.0 (3.0)			44.4 (11.1)			14	6	
あまり/ まったく感じない	2.5 (3.0)	129.5	0.461	33.3 (33.3)	99.5	0.126	15	1	0.043
非常に/やや感じる	2.0 (2.0)			44.4 (13.9)			1	7	
あまり/ まったく感じない	2.0 (3.0)	132.5	0.523	33.3 (33.3)	58.5	0.021	16	3	0.417
非常に/やや感じる	1.5 (3.0)			44.4 (19.4)			10	5	
	まったく感じない 非常に/やや感じる あまり/ まったく感じない 非常に/やや感じる あまり/ まったく感じない	中央値 (範囲) あまり/ 3.0 (3.0) まったく感じない (3.0) 非常に/やや感じる (3.0) あまり/ 2.5 (3.0) まったく感じない (3.0) 非常に/やや感じる (2.0) あまり/ 2.0 (2.0) あまり/ 3.0) まったく感じない (3.0)	中央値 (範囲) U値 あまり/ まったく感じない 3.0 (3.0) 89.0 非常に/やや感じる 1.0 (3.0) 1.0 (3.0) ままり/ まったく感じない 2.5 (3.0) 129.5 ままり/ まったく感じない 2.0 (2.0) 132.5 まったく感じない 1.5	中央値 (範囲) U値 p値 あまり/ まったく感じない 3.0 (3.0) 89.0 0.047 非常に/やや感じる 1.0 (3.0) 2.5 (3.0) 129.5 0.461 非常に/やや感じる 2.0 (2.0) 132.5 0.523 まったく感じない 3.0) 1.5	中央値 (範囲) U値 p値 中央値 (範囲) あまり/ まったく感じない 3.0 (3.0) 89.0 (3.0) 0.047 33.3 (36.1) 非常に/やや感じる 1.0 (3.0) 44.4 (11.1) あまり/ まったく感じない 2.5 (3.0) 129.5 (3.0) 0.461 33.3 (33.3) 非常に/やや感じる 2.0 (2.0) 44.4 (13.9) あまり/ まったく感じない 2.0 (3.0) 132.5 (3.3) 0.523 (33.3) まったく感じない 1.5 44.4 非常に/やや感じる 1.5 44.4	中央値 (範囲) U値 p値 中央値 (範囲) U値 あまり/ まったく感じない 3.0 (3.0) 89.0 0.047 33.3 (36.1) 95.5 非常に/やや感じる 1.0 (3.0) 44.4 (11.1) 44.4 (11.1) あまり/ まったく感じない 2.5 (3.0) 129.5 0.461 33.3 (33.3) 99.5 非常に/やや感じる 2.0 (2.0) 44.4 (13.9) 44.4 (13.9) あまり/ まったく感じない 2.0 (3.0) 132.5 0.523 33.3 (33.3) 58.5 非常に/やや感じる 1.5 44.4	中央値 (範囲) U値 p値 中央値 (範囲) U値 p値 あまり/ まったく感じない 3.0 (3.0) 89.0 0.047 33.3 (36.1) 95.5 0.120 非常に/やや感じる 1.0 (3.0) 44.4 (11.1) 44.4 (11.1) 44.4 (11.1) あまり/ まったく感じない 2.5 (3.0) 129.5 0.461 33.3 (33.3) 99.5 0.126 非常に/やや感じる 2.0 (2.0) 44.4 (13.9) 44.4 (13.9) 58.5 0.021 非常に/やや感じる 1.5 44.4 44.4 非常に/やや感じる 1.5 44.4	中央値 (範囲) U値 p値 (範囲) 中央値 (範囲) U値 p値 (範囲) U値 p値 (約円) なし (n) あまり/ まったく感じない 3.0 (3.0) 89.0 (3.0) 0.047 (36.1) 33.3 (36.1) 95.5 (36.1) 0.120 (11.1) 12 おまり/ まったく感じない 2.5 (3.0) 129.5 (3.0) 0.461 (3.3) 33.3 (33.3) 99.5 (3.3) 0.126 (13.9) 15 おまり/ まったく感じない 2.0 (3.0) 132.5 (3.0) 0.523 (33.3) 33.3 (33.3) 58.5 (33.3) 0.021 (16 非常に/やや感じる 1.5 44.4 (4.4 10	中央値 (範囲) U値 p値 (範囲) 中央値 (範囲) U値 p値 (範囲) U値 p値 (前囲) なし あり (n) あり (n) あまり/ まったく感じない 3.0 (3.0) 89.0 (3.0) 0.047 (36.1) 33.3 (36.1) 95.5 (11.1) 0.120 12 2 おまり/ まったく感じない 2.5 (3.0) 129.5 (3.0) 0.461 (3.9) 33.3 (33.3) 99.5 (3.0) 0.126 15 1 おまり/ まったく感じない 2.0 (2.0) 44.4 (13.9) 1 7 あまり/ まったく感じない 2.0 (3.0) 132.5 (3.0) 0.523 (33.3) 33.3 (33.3) 58.5 (30.2) 0.021 16 3 非常に/やや感じる 1.5 44.4 10 5

表 5	仕事継続の	ための取り	組みに関連す	る要因
-----	-------	-------	--------	-----

n = 35

		診断	後経過年	手数	仕事についての相談 (看護師)			ワーク モチベーション		
		中央値 (範囲)	U値	p値	している (n)	していない (n)	p 値(Fisher の直 接法による値)	中央値(範囲)	U値	p値
空夕の八字	伝えていない/一部 の人に伝えた	3.0 (4.0)	91.0	0.038	2	15	0.121	15.0 (5.0)	113.0	0.183
病名の公表	多くの人に伝えた	1.5 (2.0)			7	11		17.0 (5.0)		
日常生活上の注意点の	伝えていない/部分 的に伝えた	2.0 (4.0)	121.5	0.383	2	19	0.015	15.0 (6.0)	80.0	0.033
の注意点の 公表	すべて伝えた	1.5 (2.0)			7	7		18.0 (4.3)		

佐藤ら(2013)

協会けんぽに加入するがん患者が 化学療法を受けた曜日の分析

本人•男女計	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
0-19歳	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20-64歳	0.8%	13.5%	22.3%	18.5%	22.8%	18.4%	3.6%
65歳以上	2.7%	14.7%	16.0%	16.0%	28.0%	20.0%	2.7%
合計	1.0%	13.6%	21.7%	18.4%	23.3%	18.5%	3.5%
家族•男女計	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
		/] -庄 一		ハルド 口	* * r ==	元 k 年 ロ	┸╫⋿┢
0-19歳	0.0%	7.1%	28.6%	21.4%	21.4%	14.3%	工曜日 7.1%
0-19歳 20-64歳						14.3%	
, ,, ,	0.0%	7.1%	28.6%	21.4%	21.4% 18.2%	14.3% 18.9%	7.1% 1.0%

「がん」などの病気を抱える方の治療と仕事の両立の状況

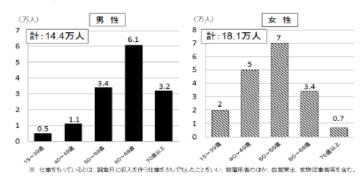
病気になっても働き続けられるようになってきている

○ がん患者の生存率が年々上昇するなど、治療技術の進歩で、かつての「不治の病」も 「長く付き合う病気」に変化している

実際に多くの方が病気を抱えながら働いている

- 働きながら通院治療しているがん患者は32.5万人 ※通院治療しているがん患者の総数は71万人
- 疾病を理由に1月以上休業している従業員がいる 企業の割合は、がんが21%、脳血管疾患が12%

<仕事を持ちながらがんで通院している者>



一方で、仕事を優先して治療を中断したり、病気を理由に離職してしまう方も多い

- 糖尿病患者の8%が治療を中断しており、<u>最多の理由は「仕事(学業)が忙しいから</u>」
- がん患者のうち体力低下や勤務調整が困難などを理由に依頼退職・解雇された者は35%

多くの企業が病気にかかった社員の対応に苦慮している

○ 病気になった社員の適正配置や雇用管理等について、<u>90%の企業が対応に苦慮</u>

厚生労働省: 病気を抱える方の治療と仕事の両立支援に関するガイドライン(H28年)

病気を抱える方の治療と仕事の両立支援に関するガイドライン

治療と仕事の両立支援のための取組の進め方

① 労働者が事業者へ申出

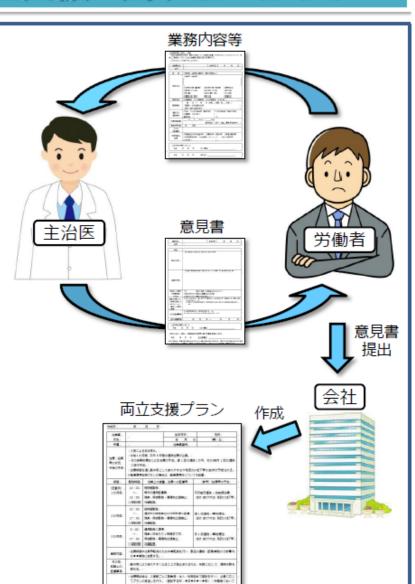
- ・<u>労働者から</u>、<u>主治医に</u>対して、<u>業務内容等を</u> 記載した書面を提供
- ・それを参考に<u>主治医が</u>、症状、就業の可否、 作業転換等の望ましい就業上の措置、配慮 事項を記載した意見書を作成
- ・労働者が、主治医の意見書を事業者に提出



② 事業者が産業医等の意見を聴取



- ③ 事業者が就業上の措置等を決定・実施
 - ・<u>事業者は</u>、主治医、産業医等の意見を勘案し、 労働者の意見も聴取した上で、<u>就業の可否、</u> <u>就業上の措置(作業転換等)、治療への配慮</u> (通院時間の確保等)の内容を決定・実施
 - ※「両立支援プラン」の作成が望ましい



まとめ

- ・ 仕事と治療の両立支援が国の優先課題となっている。
- 特にがんや難病がその対象疾患として重視 されている。
- レセプトから外来化学療法の受診曜日の分析を行った結果、両立支援が十分行われていない状況が示唆された。
- 今後、このような情報を定期的に公開し、両立支援が促進される基盤整備を行うことが求められる。